

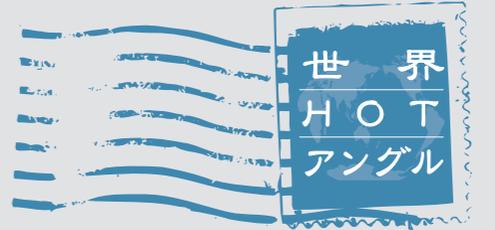
# from Macedonia



最優秀賞に選ばれた作品「古い教会」を描いたメディジャ・ニコロスキくん(左)とサシェ・トラコスキくんが作成時の苦労や発見などを発表。この模様は地元テレビでも放映された



## 環境地図で住み良い町をつくらう!



地理情報が軍事機密として厳重に管理されていたマケドニア。その影響で今も古くて高価な地図は、市民にとって縁遠い存在だ。現在 JICA は、国土の調査を通じて地図の作成技術を伝えている。その中で開催された「環境地図コンテスト」は、地図を知らない人々に何をもたらしたのだろうか。



### 市民の元に届かない地理情報

1枚144ユーロ(約2万円)、待ち時間1週間、年間46枚。何のことも分かるだろうか? 人気ブランドや期間限定商品についてはない。これは、マケドニアで販売される地形図の単価、取得所要時間、そして年間の販売量だ(ちなみに同国政府職員の新給給は約200ユーロ)。  
旧ユーゴスラビア時代、同地における地理情報は軍事上の重要な機密事項として厳重に管理されてきた。そのため、利用はごく一部の政府関係者に限られ、決して国民の手に渡ることはなかった。1991年の独立をきっかけに情報公開を進めてき



市内の小学校を訪問し、JICAの活動や環境地図コンテストについて子どもたちに説明する筆者(中央奥)。調査団が撮影した空中写真と作成キット(画用紙、色鉛筆、クレヨンなど)を提供した

したことを自分で描いた地図の上に分かりやすく表現することが重要なのだ。  
日本では広範に実施されている環境地図作りも、マケドニアでは初めて。JICA事業においても前例がなかったため、環境地図教育研究会の協力を得て「環境地図マニュアル」をマケドニア語に翻訳することから着手。その後、中核都市プリレップの初等学校(8年制)に通う5、8年生を対象とした環境地図コンテストを企画した。しかし、地図を描く紙も道具もなく、何より子どもが地図を描いたことがないのが実施は難しいとの声が多く、教員から上がったため、調査団は作業に必要な画用紙と絵描き道具を貸与し、JICAの地図に関する取り組みやイベントの趣旨、面白さを説明。次第に協力の輪は先生、校長、教育委員会、地元テレビ局へと広がっていき、最終的に886人の生徒から276枚の作品が寄せられた。これは調査団の予想をはるかに超える数だった。  
町に投棄された空き缶や吸い殻を

ではいるものの、価格の設定や販売方法は、利用者に配慮されないまま現在に至っている。そして、子どもたちが地理を学習する機会には依然として少なく、地図が読めない、利用しない人々が大半を占めているのだ。さらに、現存する地形図は30、40年前に作成された古いものばかりであるにもかかわらず、情報を更新する技術がなく、地域開発や資源調査などに大きな影響を及ぼしてきた。  
このような状況の下、マケドニア政府は日本政府に対して「全国地理情報データベース整備計画調査」を要請し、2004年3月にJICAは調査を開始。調査団は地形調査を通じて、マケドニア全土(2万5713平方キロ)のうち約1万4000平方キロの地形図作成(縮尺1/2万5000)と国家測量機関への技術移転そして国民への地理情報の普及に取り組んでいる。



最優秀作品「古い教会」(左)、8年生の優秀作品「迷い犬」(右上)、JICA賞「自然を守れ!」(右下)、応募作品の中から計19点を受賞した



題材にした環境問題に関する地図、主産業のタバコ栽培地を示した地図、明かりのともらない街灯を浮き彫りにした地図、野良犬の行動を追跡した地図、駐車場の空き状況など、実に創造的で生き生きとした作品が集まった。展示会には約2000人が訪れ、また優秀作品の表彰式は200人を超える人々にぎわった。  
身の回りの環境問題を克明に描写し、最優秀作品に選ばれた男子生徒たちは「輝かしい将来とすばらしい環境を求める皆さんに伝えたい。環境汚染を止めよう! 僕たちの健康、太陽、空気、ぬくもり、そして将来のために!」と声高に叫んだ。  
この作品をはじめ優秀作品は、昨年秋に北海道旭川市で開催された「私たちの身の回りの環境地図作品展」にも応募され、見事に複数の作品が表彰を受けた。

調査団が作成した新しい地形図は、年内にマケドニア政府へ渡される予定だ。身近な地域の様子を映し出し、読み手に町づくりのアイデアを提供し、問題点を際立たせてくれる地図、すべての人が自由に触れられ、活用できる社会こそ、安全で活気のある住み良い町を形成していく。環境地図作りを通じた子どもたちの発見は、きっとプリレップの町づくりに貢献していくことだろう。

普及については販売体制の見直しを検討するとともに、利用者拡大を図るために初等教育機関へアプローチ。単に地図や参考書を配布し、教師が教えるのではなく、地図の面白さや利便性を体感してもらおうと「環境地図」作りを計画した。

### 町づくりに貢献する地図

「環境地図」とは、身の回りの環境について関心を持ったこと、考えたこと、調査したことを記した地図。道幅や家屋の大きさなどの精度を求めめるのではなく、近所を歩いて発見



作品展示会に訪れた子どもたち。会場には色とりどりの環境地図が数多く展示された